

text: Kenji NAKAMOTO (中本健二)  
Photo: Car magazine (編集部)



●1955ボルシェ356A/奥沢淳治、奥沢公基ペア  
●1956ボルシェ356Aスピードスター/柴田俊博、柴田謙介ペア  
●1964ジャガーモーターS1/DHC/澤村貴明、澤村真理ペア  
●1975トヨタコロン/渡多野崇博、稲垣洋ペア



フェリー乗り場に次々と到着する参加車両も迎えたのが、地元「おかせ太鼓」メンバーによる太鼓の演奏。出航までの時間を待たず楽しく楽しむ演出だ。



このイベントではおかげで昔例となっていたが、カーフェリーを貸し切って三河湾を周遊するプログラムだ。海上上での休憩、そしてランチタイムとなる。

## 門戸を開いた参加しやすい公道ラリー

9月22日、ワンデイの公道ラリーイベントとして開催された名古屋クラシックツアー。スタート会場となった白鳥庭園は、水の物語をテーマとした名古屋市内随一の規模を持った日本庭園で、早め到着した参加者は、ドライバーズミーティングがはじまるまでの時間をゆっくりと過ごすことができる。

「今回はレギュレーションを緩めて、初心者でも気軽に楽しめるコース設定になっています」と主催者の天野さんが話すように、初心者も多数参加。また、高年式のモデルも参加可能となっているため、当初は50台でエントリーを打ち切る予定だったそうだが、予想以上に反響が多く最終的なエントリー台数は70台となったそうだ。

そのため、1グループでのラリーは不可能ということで、急遽2グループに分かれての開催になったとのこと。スタート地点を別々にし、途中から合流して

ゴールで全参加車が顔合わせするという、モンテカルロラリーのような方式だ。

フェリーでの移動や連続C.P.など、ラリーと観光気分が味わえる要素がミックスされ、初めてでも確かに参加しやすく楽しめる内容となっていた。

### EVENT DATA

ジャンル:公道ラリー  
エントリー車両: 2000年までに生産されたスポーツカー  
開催日: 2012年9月22日  
開催地: 名古屋・瀬尾半島・知多半島  
参加費: 4万円(1台2名)  
問い合わせ: ヒストリックカーミーティング実行委員会  
URL: <http://historicismmeeting.com/>

### Report Memo

高年式のスポーツカーでも参加できるため、初めての公道ラリーといった参加者が多かった。またコースもシブな構成となっているため、風景明媚なポイントもみな楽しんでいることがこのイベントの魅力だ。

### ベテランコンビで参戦



1997年式のモーガンプラス4で参加は稲見賢夫、小田有明ペア。各社のイベントに参加するベテランで、モーガンの他に小口エDSも所有する。20人はほどで仲間集まってミーティングをするなどクルマ趣味を楽しんでいる。



スタート会場は名古屋市の中心部に位置する白鳥庭園。早め到着した参加者たちは、ドライバーズミーティングが始まるまで、日本庭園を見て楽しむことができた。



35年前から所有しているというトヨタスポーツ800でエントリーの稲垣隆夫、稲垣和子ペア。30年ほど前にフルレストアを施して以来、好調を維持している。



### 新しい愛車でイベントデビュー

これまでは、ボルシェP1800エーストでヒストリックイベントへ参加していたという赤田哲也さん。今回は新しく購入した1961年式のアルファロメオジュリエッタSに参戦。主人のツデで、なんと1週間前にオーナーとなったばかり。



### コンディションとカラーで注目の的



赤のボディ色と、ホワイトのシートの組み合わせで注目を集めた1966年式のトヨタパブリカコンバーチブル。スタンプを纏めるのは、武蔵裕行、岩元隆清コンビ。ウィングデッカー-芳野で2年前に購入し、1年間レストアを行ったとあってコンディションは抜群。



●1957ボルシェ356A/金田英基、緒方誠一ペア ●1969ディーノ240GT/田嶋久美、田嶋真博ペア ●1966ジャガーMK-II/相澤守人、多佳子ペア ●1971ダットサンフェアレディS/R/加藤正史、加藤智子 ●1981フェラーリモンディアル/石川隆仁、石川直也ペア ●1975ローバー3500/岩崎直樹、岩崎純子ペア



スタンプポイントとなっている、いびきせいの樹影に正場に参加者。スタンプだけでなく、お土産をじっくりと購入する人もいろいろと和やかな雰囲気です。



開場地ならではの特産品も味わうことができるのもこのイベントの特長。スタンプはニュー瀬尾観光にて休憩をかねてメロンを味わう。なんと1つにつき半分を用意。



タイム計測が行われるP.C.は、3連続2台が設置されていた。本格的なラリーコンピュータを持ったベテランから、キッズドライバーまで利用する参加者組も様々だ。



●1967トヨタ2000GT/木村明昭、木村文彦ペア ●1965オーステインランドリーマン/榎本和典、中塚一成 ●1967オーステインヒーレー3000/津水直樹、津水真美ペア ●1971フェラーリ365GTデイノ/神谷晋夫、神谷真行 ●1971アルファロメオジュリエッタ2000GT/山下直樹、上村隆史 ●1980トヨタランタス/石川武彦、安藤佳代ペア



●1971メルセデスベンツ280SE/高谷善分さん ●1969ボルシェ12/高谷和男、高谷智子ペア ●1982フェラーリテストロッキア/富田昭雄、富田美貴子ペア ●1954ボルシェ911ターボ/水田行博、高橋光信ペア ●1994ニッサンスカイラインGT-R/鈴木基弘、渡邊正男ペア ●1965MGジュエツトS2/山中三郎、山中弘子ペア



コンクール受賞歴を持つ1台  
こちらの1955年式ボルシェ356Aスピードスターは北米のコンクールで優勝した個体だけあって、コンディションは非常に良好。シャシー、エンジンともにマッドラグランダー・モディジナルのホールキャッチャーなど、各所のようコンディションを持つ。







2つのグループに分かれてラリーは進行していたが、すれ違う地点となったフェリー乗り場。駐車場の多くついでに、動くモーターショーといった雰囲気を堪能していた。

渥美半島をぐるりと巡り  
 1日を通してラリー競技と  
 観光も堪能できる1Dayイベント



新車当時から  
 手塩にかける愛車

高年式思いやり、以外にも生産から20年近く経過した1993年式スズキ・カブクーペで参加の杉本達彦、杉本美歩ペア。新車で購入し、19年ぶりに走らせた愛車。足まがらびはスズキスポーツで統一。本日のイベントカレンダーを見て参加を決めた。



親子で楽しむ  
 ヒストリックイベント

1957年式のフォルクスワーゲンビートルでエントリーした櫻橋信之、櫻橋知子ペア。もともとイタリアの友人も乗っていたフォルクスワーゲンが、このイベントを機に、ボルシェ3500Rのブレーキを移植するなど各部にオーナー好みのモディファイが施されていた。



- 1970年式アルファロメオジュリア1300GT/後藤啓立、後藤博夫ペア
- 1990年式ローレックス/神谷有紀、神谷光孝ペア
- 1954年式ジャガーXK120FHC/吉田裕男、上野山由也ペア
- 1989年式ローレックス/神谷有紀、神谷博夫ペア



- 1960年式MG/加納健二、北秀三ペア
- 1960年式ローレックス/三輪全明、中島善代子ペア
- 1998年式BMW Z3/辻舞之、藤井克己ペア
- 1967年式アルファロメオスパイダー/水谷秀彦、吉川英明ペア



イベント参加を目指し  
 チンクエチエントを購入

1971年式のフィアット500で、自分で駆けつけた志田東雄、妻村太郎ペア。とことん走りながら、東京から古巣までの長距離ドライブを楽しんだこと、ヒストリックカーイベント参加のため、5年程前に手に入れたこと。



豪雨にもめげず  
 オープンエアを堪能

1週間ほど休みを取り、旅行をかねてエントリーしたという中山博史、中山真平もペア。ウインドスクリーンを付けないソフトトップモデルの1977年式ローレックススポーツクーペで参加。購入後1年で、約5000kmほど走ったが今のところトラブルなし。



場所は変われど  
 運転の楽しさは変わらず

1965年ローレックス・エランで参加の中山茂夫さんは、エラン・ツインなどでも参加して長距離ドライブも楽しんでいて、関東からの転居で参加にむかいつたという。愛車も走りを楽しめる道を探し、1日イベントは気持ちよく参加できるのがお気に入りとのこと。



- 1953年式ジャガーCタイプ/後野行廣、相澤一清ペア
- 2005年式フェラーリF430/浅井政彦、浅井美歩ペア
- 1974年式ボルシェ111カレラ/本田信彦ペア
- 1967年式BMW2000G1/柳川健一、中山明夫ペア
- 1969年式ローレックス/藤川功、今村裕也ペア
- 1995年式ボルシェ111カレラR5/田中幸一、田中まゆみペア
- 1973年式ボルシェ111カレラR5/田中幸一、田中まゆみペア
- 1969年式ボルシェ111カレラR5/田中幸一、田中まゆみペア
- 1973年式ボルシェ111カレラR5/田中幸一、田中まゆみペア
- 1973年式ボルシェ111カレラR5/田中幸一、田中まゆみペア
- 1973年式ボルシェ111カレラR5/田中幸一、田中まゆみペア
- 1973年式ボルシェ111カレラR5/田中幸一、田中まゆみペア



ミニロードスターで特別参戦!

急遽参加中に空気が出来たため、主催者の種々な計らいで取材する朝から参加する朝へ、というわけで、BMWミニロードスターにて緊急参戦。東京の自宅から名古屋市内のイベント会場までは約350km。中央道を西へ、西へひた走る。



2012 BMW MINI ROADSTER

クーペと共に、新しくミニファミリーに加った2シーターのロードスター。手動式の開閉ソフトトップを備えており、クーペのようなスタイルインクとオープントップの開放感を味わうことができる。

8:30からドライバーズミーティングがスタートするので、0時到着を目指して3:30に自宅を出発。

スタート直後の白鳥直道へ。7:50到着。が、他の参加車も集まり、やっぱりイベント日は早朝だ。

8:45にドラミが終わり、スタート前に来たばかりのランチン。1日を共にする仲間なので、慎重に。

12:50小さいと聞いていたが、豆パンと並ぶと圧倒的に大きく見える。ランチンで次の目的地へ。

13:00、ラリー移動の時間を活用して、ランチンでランチ。赤タンが名古屋気分を盛り上げる。

14:02、朝13人で3連発P.Cへ挑戦するも結果は惜みならず。特記するほどの成績は残せず……。

夕陽が迫る中、最後のP.Cを目指して走行中。ヒストリックカーに前後を挟まれる走行は楽しい瞬間だ。

ミニロードスターのインパネを越えてローバーとミニ。他にもオースティン・ヘッチャックとミニは4台参加。観戦気分も楽しめるラリーだ。